



建物は北海道遺産「開拓時代の洋風建築」のひとつにも選定されている。

開拓農家の暮らしを有形文化財の中で学ぶ

南区

みすまいきょうどしりょうかん

簾舞郷土資料館

札幌市に残る唯一の通行屋

簾舞郷土資料館は、札幌市指定有形文化財である「旧黒岩家住宅(旧簾舞通行屋)」内にある。

明治4年(1871)、札幌から定山溪を経て有珠に通じる本願寺道路が開通したことに伴い、その要所となる簾舞に宿泊・休憩所として翌5年に建てられたのが、簾舞通行屋だ。通行屋とは開拓使が主要道路の要所に設置した施設で、早馬の乗り継場所として、また旅行者などの宿泊所として利用され、交通事情が悪かった当時には大切な施設であった。

当初は多くの利用客がいたが、明治6年(1873)に千歳から室蘭へ札幌本道が完成した後は本願寺道路を通行する者が次第に減り、簾舞通行屋は明治17年(1884)に廃止。建物は通行屋屋守であった黒岩清五郎に払い下げられ、曳家で現在地に移された。その折に増築され、ほぼ現在の姿となった。開拓農家として黒岩家4代が暮らし、宿屋なども営んできたという。豊平町役場官吏の出張所、私設教育所(現在の簾舞小学校)などにも利用され、地域の発展に大きく寄与してきた。札幌市に残る唯一の通行屋であり、地区最古の開拓農家、さらに開拓使時代初期の家屋構造を今に伝える貴重な建物である。

コレも見どころ

旧定山溪鉄道で使われた タブレット閉塞器

大正7年(1918)から昭和44年(1969)まで、札幌と定山溪の間を結んだ旧定山溪鉄道。単線路のため、追突や衝突を防止するための方法として「タブレット(通票)閉塞方式」が採用され、駅と駅の間など閉塞区間と呼ぶ一定区間で「タブレット」を所持している列車しか運行できないシステムだった。同館では道内最古と思われる貴重な2台一組のタブレット閉塞器を見ることができる。



明治5年(1872)の創建当時は現在の左半分(旧棟)のみの姿で、旧玄関の土間に続き板敷きの炉付き広間があり、中廊下を隔てて四つの部屋で構成する、宿泊機能を考慮した間取りになっている。広間には天井がなく、小屋裏のキングポスト・トラス(洋風小屋組)が見てとれる。洋風の建築技術を導入していた開拓使の意気込みが感じられる設計である。また明治20年(1887)に増築された右半分(新棟)は、馬小屋、納屋などが設けられており、開拓農家が生活しやすい間取りになっている。簾舞地区は札幌農学校第四農場、御料農場などの開設により、農林業を基幹産業としながら

発展していった。

新棟の資料館では地域の教育や文化、日常生活の変遷などをパネルや写真、実際に使われていた道具類などで紹介。また、旧定山溪鉄道の資料類も豊富で、鉄道好きにもたまらない展示品が並んでいる。



新棟の台所。人形や生活道具が当時の生活を想像させてくれる。



旧棟の天井を見上げると、キングポスト・トラスの構造がよく分かる。

- 住所：南区簾舞1条2丁目4-15
旧黒岩家住宅(旧簾舞通行屋)
- 電話：011-596-2825
- 休館日：月曜(祝日の場合は翌日)、
祝日の翌日、年末年始
- 観覧時間：9:00~16:00
- アクセス：じょうてつバス「旧簾舞通行屋前」から約150m、
または「東簾舞」停留所から約400m
- 資料収蔵数：約1,020点
- 開館年：昭和61年(1986)